

くにしせき まかべじょうあと
国史跡真壁城跡

国指定 平成6年10月28日
文部省告示第141号
史跡保存整備事業（国庫補助）を実施

ひたちへいし
常陸平氏
まかべし
真壁氏



鬼道無の大戦略

出土した城郭庭園

戦国の城と城下町

中世の道と城館

所在地：茨城県桜川市真壁町古城

真壁城跡は戦国時代につくられた真壁氏の城です。城は、鬼道無と呼ばれた真壁久幹（ひさもと）の頃に整備し、息子氏幹、孫の房幹まで使用されたことが発掘でわかりました。真壁家は、平将門の乱で将門を討った平貞盛の弟・繁盛（しげもり）の家系で、いわゆる常陸平氏の一族。平安末期、真壁郡に入部した平長幹（たけもと）が真壁家の初代当主です。

おにどうむ
鬼道無の大戦略
永禄12年（1569）
おばた てばいさか
小幡 手這坂合戦
想像図



真壁久幹（ひさもと）は塚原卜伝流の剣豪で武略に長け、鬼道無と呼ばれた戦国武将です。手這坂合戦では、少数の兵で小田軍3000人を手這坂の山岳戦に誘い、鉄砲の上手・紀州根来法師の大蔵（だいそう）に命じて、小田軍先陣の岡見弾正（おかみだんじょう・谷田部城主）を鉄砲で狙撃し、戦いを有利にします。この間、寺、町、在郷住民による別働隊約1000人が小田城を占拠、小田軍は土浦城へ退去します。新兵器鉄砲とスナイパー大蔵の活躍、城と城下住民が連携した戦略の勝利でした。

参考史料
『佐竹家旧記』
『当家萬覚書』
（江戸時代）

出土した城郭庭園
中城庭園跡
永禄～慶長7年
（1558～1602）



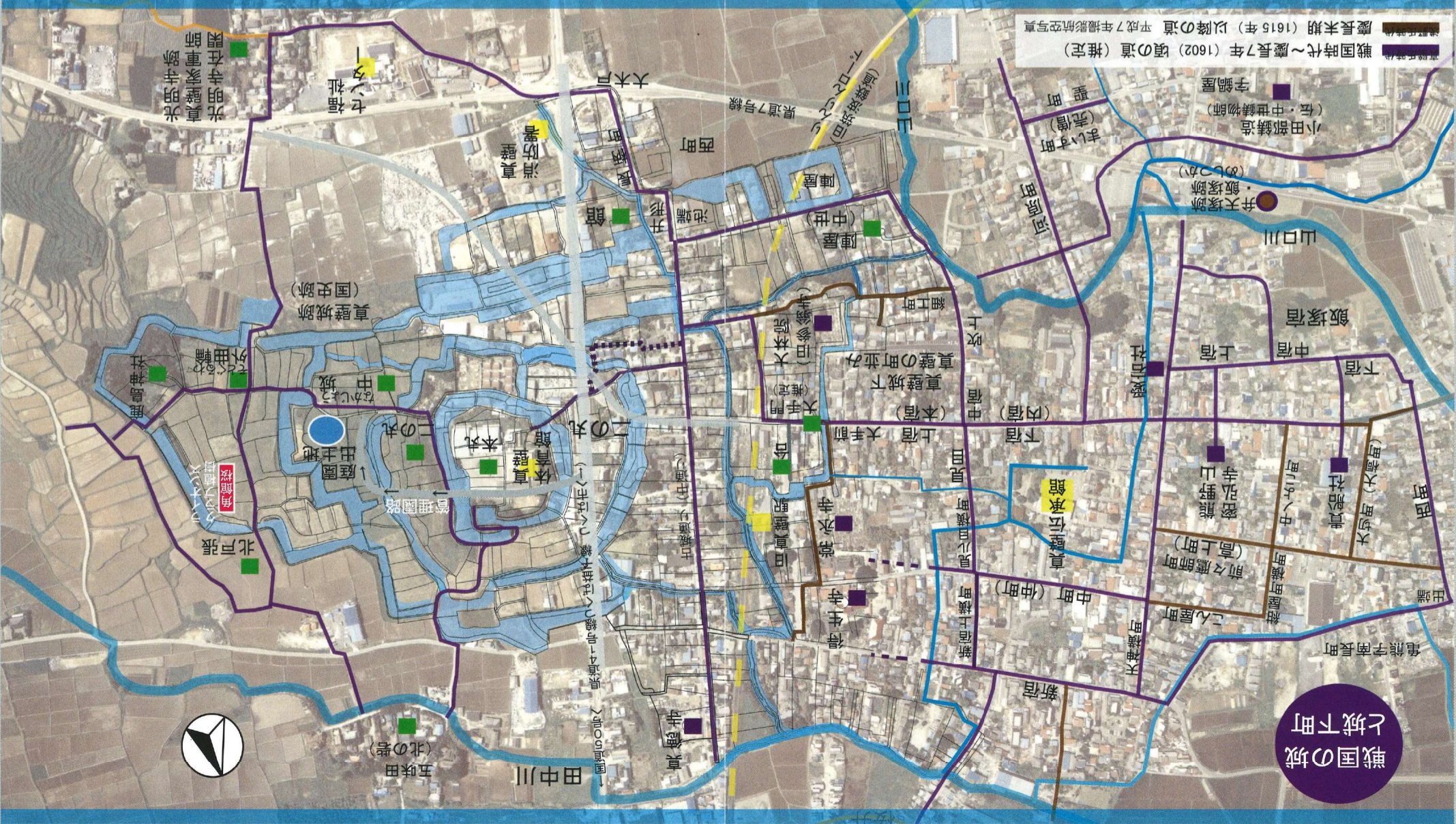
中城地区では庭園跡が出土しました。東西25m、南北14mほどの大きな池、建物跡、茶室、能舞台と推定される施設群の庭園です。真壁久幹の頃は茶室と池の庭園。氏幹の代に、建物群、能舞台を追加、秋田移封の慶長7年まで使用したようです。



真壁城の庭園跡からみた筑波山

中世の真壁城と城下町

真壁の町並み 真壁の町並みは「飯塚」が、最古の史料。飯塚は「矢野満里談状写」（人見 成永31年（1424）の月過去去帳）（天正～慶長7年）に、真壁氏時代の陣屋、内宿、中町、本宿、大宿等が記されています。
中世真壁氏 城下町の史料 高野山浄心院の『常陸日 月過去去帳』（天正～慶長7年）には、真壁城の大手門・伝 馬引山薬法寺（桜川市 近）に記されています。
発掘調査 史跡保存 整備事業 本格的な発掘調査は 平成9年度開始。戦国時代の堀、土塁、庭園跡、道等が出土。出土品は10万点以上。
城の復元 史跡保存 整備事業 発掘成果をもとに、土塁 や堀、道、屋敷等の地 形を復元。復元は、永 禄（えいりく）～慶長（けい ちやう）年間（1558-1602）



戦国の城と城下町

●3つの城を守る、真壁の町並み 真壁の町並みは、東を真壁城、西を龜 熊城と湯世城が守る安全な町でした。
●真壁城と城下の年代 築城は1450年頃（発掘成果） 廃城は秋田移封の1602年頃 全体はおよそ東西800m、南北500m 面積12.5ha（国指定部分）
●真壁城跡の大きさ 本丸を中心とした二の丸、中城、 外曲輪が囲みます。 城の特徴 堀・土塁は「横矢がかり」という複雑 な折れ構造で、鉄砲戦に備えた要塞。

